

まくせのやしろ  
**万九千社**  
 たちむしんじや  
**立虫神社**  
**社報**  
**神戸の郷**  
 第五五号 平成二十八年秋  
 「発行」十月吉日 代宮家 (錦田)



今季の祭

**万九千さん**

全国では神無月とよばれる旧  
 暦十月を出雲地方では神在月と  
 呼び慣わしています。  
 日本中の八百万神が、出雲へ  
 参集されると伝えられるからで  
 す。  
 私たちのお護りする万九千社  
 では、神々が神議りの締めくく

りと直会なほらひを催し、明くる日の早  
 朝、諸国へとお帰りの旅立ちを  
 なさると伝えてきました。

まもなく日本中のやおよろず  
 の神様が、私たちの住まいする  
 この土地のお宮へとお越しにな  
 ります。誠にありがたいこと  
 です。

今年も皆様の御協力をいた  
 だきまして、しっかりと御奉仕致  
 たく存じます。  
 どうぞ御家族おそろいでお参  
 り下さいませ。

なお、平成二十四年から龍神  
 祭、神在祭及び神等去出祭につ  
 きましては、旧暦に基づいて祭  
 祀を厳修しています。一方で、  
 従来の新暦十一月二十六日、二  
 十七日には出雲へご参集の八百  
 万神の御神徳にあやかり特別祈  
 願祭を行いますので、よろしく  
 ご承知おき下さいませ。



十一月  
 十六日 (水)

早朝

※旧暦の十月十七日にあたります

**一、龍神祭、**  
**お忌み入り**

龍蛇りゅうじやさまを先導役として八百  
 万神を、斐伊川でお迎えする祭  
 です。  
 古くから、宮司一人が人知れ  
 ず行う秘儀とされ、夜明け前に  
 斐伊川の水辺で行います。  
 水辺での神事が終わると、宮

司は神籬ひもろぎ（神々の宿られる榊の木）に遷られた神々を万九千社へと御案内します。そこで、神迎えの祝詞を奏上し、当社はお忌み入りとなります。

お忌み入りとは、神々の滞在や会議を邪魔しないように、忌み慎んだ祭事や生活に入ることを行います。出雲地方では、神在祭のことを別名、「お忌みさん」とも呼んでいます。

### 龍神祭、神迎えの様子

（撮影 中野晴生氏）



十一月二十四日

（木）

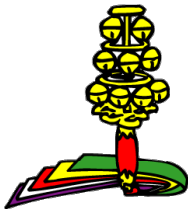
※旧暦の十月二十五日にあたります

## 一、前夜祭

戸を閉ざした社殿内で宮司ほか数名が奉仕します。神等去出祭を翌日に控え、あらためてお供えをして祝詞を奏上します。

明日の神等去出祭を前に、宮司ほかの奉仕者が神社に布団を持ち込んで一夜を過ごす、お籠もりの神事も行います。

これには、神々のおそばで忌み籠もること、心身の清浄を極め、靈魂を鎮める意味もあります。



神在祭にあたり万九千社神殿の前後の御扉が開かれた様子



十一月二十五日

(金)

※旧暦の十月二十六日にあたります

## 一、万九千社 大神等去出祭

万九千神社にとつては、一年で最も重要な祭儀です。宮司以下の神主等が昇殿し、古式に則って御奉仕します。

御神前に、たくさんのお供え物をして、当社にお集まりになつて会議をなさる全国の八百万神さまを静かに厳かにおもてなします。そのため神楽などの歌舞音曲を一切控えて、僅かに鈴の音が響く中、静粛に諸願成就を祈念します。

夕方日没の直前から、いよいよ神等去出神事を宮司以下の神

職が薄明かりの中で御奉仕します。

この神事は、参集された全国の神々に日頃の感謝を申し上げ、旅立ちの時が近づいたことをお告げする神事です。今後とも全国の人々の幸をお守りいただくべく御祈念申し上げます。

宮司が、社殿の御扉を梅の小枝で叩きながら、「お立ち、お立ち、お立ち」と三度唱え、神々に出発が近いことをお知らせして神事を閉じます。

こののちは、神のみぞ知る時間と空間です。神々の直会が始まるのです。私たち人間は、神々の邪魔をしないようにと、一斉にその場から立ち去らねばなりません

なお、夜間境内に立ち入ることは、神々の神罰があたりとされ、日が沈むと参拝者も露店も神職も一斉にお宮を後にします。



神等去出祭の様子  
(撮影 古川 誠 氏)



十一月

二十六日(土)  
二十七日(日)

早朝から日没まで

一、万九千社

神在月

特別祈願祭

出雲国にお集まりの全国八百万の神々の御神徳を称え、参拝者の申し出に応じた特別祈願祭を行います。

名物の植木や刃物、海産物などの露天商による市が開かれます。

また、八百万神の神前にて、来年の稲作の吉凶を占う特殊神事「御種組」も行います。

今季の祭 その二

十一月

二十七日(日)  
午後二時より

一、万九千社

あとまつり

一、立虫神社  
にいなめさい(しんじょうさい)  
新嘗祭

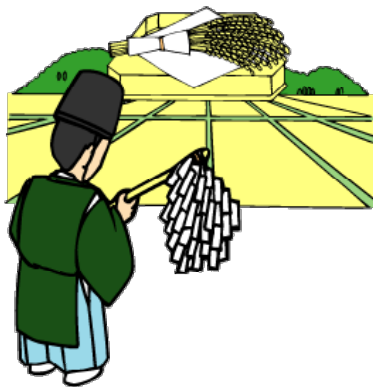
万九千社から神々が無事に旅立たれたことを寿ぐあとまつりに合わせまして、今年収穫されたお米をはじめとする新穀を万九千社と立虫神社の神々にお供えする新嘗祭を齋行します。

宮司が祝詞を奏上して、農業はもとより諸産業繁栄の感謝の気持ちをし上げ、人々のさらなる幸福と弥栄を祈念します。

当日は、お供えされた際に、各戸へ御札と御洗米を授与いた

しますので、各家で大切にお祭り下さい。

※※お供え、お米当番の方は、午後一時までに、神社参集殿へお供えのうえ御参拝下さい。よろしくお願い致します。



《あとかぎ》▼正遷宮の一大事業から二年余り、前宮司が帰幽してからまもなく二年の歳月が経とうとしています。早いものです。本当にお世話になりました。▼神社の護持運営、祭祀の厳修と継承は、氏子や崇敬者の皆様のまごころあってこそ…日々感謝です…だんだんだんだん(宮司)